



オンラインインタビュー企画 第3弾

メインゲスト

ユニセフ子どもネット

ユニセフ・スタッフ

山口さんにインタビュー!



山口さん(左端)と一緒に働いているスタッフ
©UNICEF/Yamaguchi



みなさん、こんにちは! ネットワーカーの須藤沙織です。今回はヨーロッパ地域事務所山口都子さんが、メンバーリストで私たちの質問に答えてくれました。インタビューのようすを、私たちがみなさんに紹介します!

ユニセフといえば、まずフィールドでの仕事が思い浮かべられ、山口さんはジュネーブで広報官の仕事をしているんです。ユニセフでいろいろな仕事があるんだね。好奇心いっぱいの田のぞみです。



山口都子さんからのメッセージ

Salut!(サリュウ) みなさん、スイスのジュネーブからこんにちは! ユニセフという、みなさん、アフリカやアジアの国に働く姿をまっ先にイメージされるのではないのでしょうか? もちろんユニセフの仕事の中心はフィールド(実際に支援活動を行っている開発途上国の現場)での活動ですが、それがスムーズに、そしてよりよく行われるために、ニューヨーク本部をはじめとして、ここジュネーブでも、たくさんのユニセフのスタッフが働いています。今回はみなさんにフィールド以外のユニセフの仕事をご紹介します。

私が働くヨーロッパ地域事務所は、日本ユニセフ協会をはじめとする、世界37カ国にあるユニセフ国内委員会の窓口でもあります。各国の委員会はその国の中で、子どもたちの権利が守られるように活動しているほか、ユニセフのフィールドでの仕事を紹介したり、その活動を支えるという大切な役割を担っています。私たち広報官の仕事は、フィールドで何が起きているのか、ユニセフはそこで何をしているのかを把握し、世界中の

国内委員会やマスメディアに発信し、世界の国々に人と、フィールドで働くユニセフのスタッフ、そしてその国の子どもたちをつないでいくことです。

また、ジュネーブには、国連の本部機能がおかれており、国連機関、NGO(非政府組織)の本部も数多くおかれています。そのためジュネーブは、紛争や自然災害など、緊急の事態に対応する人道支援の中心地でもあります。イラクの戦争やイランの地震など、緊急事態が起きたとき、何が必要か、ユニセフに何ができるか、何をしているのかを発信していくのも私たちの大切な仕事です。

この仕事をして一番楽しいことは、いろいろな人と出会うこと。みなさんと、メールを通して出会うことを、とても楽しみにしています。



山口さんのある一日

スイスのジュネーブとの時差は、マイナス8時間。みんなが家に帰る夕方頃、山口さんの一日が始まり、眠る頃にはあわただしく午後の仕事をこなしています。どんな一日を過ごしているのか見てみましょう。(中津川 有紀さんからの質問)



◆メールを読む

私の一日は、同僚にあいさつをしたあと、メールを読むことで始まります! 今ほとんどの仕事が電子メールを使って行われています。ユニセフも例外ではありません。特にユニセフは、世界中の国々に、それも必ずしも電気通信事情の良いわけではなく国と連絡を取りあうので、電話やファックスがなかなか通じないこともあり、また時差もあるため、メールが大切な役目をしています。平均して20~30通、多いときはそれ以上のメールが、こちらの朝の時点で届いています。

◆ニュースをチェックする

日本のメディア(マスコミ)を中心に、その日のおおまかなニュースをインターネットでチェックし、ユニセフや国連にかかわってくるような何か大切な情報がないかを確認します。

◆電で状況報告

ユニセフの駐日事務所や、ジュネーブにある日本代表部など、日本に関わる機関やオフィスとも連絡をとりあっているため、毎日ではありませんが、電話をして近況報告をしたりします。



◆ランチタイム

ふつうは1時から1時間15分くらいのお休みがあり、夏やお天気のいい日は、目の前にある公園で散歩ランチをします。



◆本部との仕事がスタート

再び仕事ですが、ユニセフの本部があるニューヨークは時差の関係で、こちらの2時過ぎごろから動き出すので、ニューヨークとのやり取りはこのころから始まります。世界の何カ所かを同時につなぐ、電話会議もあります。

◆ミーティングに出席

私の働いているセクションでは、週に一度は全体のミーティングがあります。全員で、その週の課題や必要な対応などを検討・確認します。また、なにか大きな会議やイベントなどが予定されている場合、それにかかわるスタッフが集まってミーティングをします。

◆メディア対応

週に2回、国連本部で国連に話しているジャーナリストを対象にしたメディア・ブリーフィングがあります。ユニセフのスポークスマンがユニセフのニュースやメッセージを伝えたり、インタビューを受けたりするので、それについて行き、ジャーナリストと話したり日本のメディアのオフィスに顔を出したりして、情報を集めたり伝えたりします。



山口さんがいつも仕事をしている国連のジュネーブオフィス
©UNICEF/Yamaguchi

PROFILE

東京都出身。国際基督教大学教育学部卒業。大学の時、開発と教育のテーマに出会い、卒業後、ロンドン大学教育学研究所大学院で学ぶ。修士課程修了後、NGOで働いていたに参加した。学校を建てるワークキャンプを通してカンボジアという国とその人びとに出会い、この国で働きたいと思うようになる。1996年から2年間、その夢がかない、国連ボランティアの識字専門家としてポンペウのユネスコ(国連教育科学文化機関)事務所に通い、農村地帯で村人に読み書きを教える学校外教育プログラムにかかわる。カンボジア赴任中に結婚、妊娠し

ため、当時クーデターなどで治安が悪かった当地を離れ、1998年にパキスタンのイスラマバードに家族と赴任。イスラマバードでは日本大使館で、現地のNGOの活動を支援する、日本政府の草の根無償資金協力プログラムを担当するNGOアドバイザーとなる。3年後、日本に戻ったものの、すぐにジュネーブに家族で移動。現在ユニセフ・ジュネーブ地域事務所のコミュニケーション・セクションで、主に緊急時の人道支援にかかわる広域渉外活動と、世界中のユニセフ国内委員会の窓口としての仕事を担当している。

●プライベートの山口さんは?●

パキスタンで育った5歳の娘が一人います。趣味はペットの犬と森を歩くこと、映画を見ること、スキーをすること、ピアノを弾くこと、旅行をすることです。大学生の時からアフリカ、東欧、中東、アジア、と数え切れないほど回りました。今思うと、そのほとんどが途上国です。カンボジア、パキスタンと現場での活動が続いていたので、はじめはジュネーブでの生活や仕事にとまどいましたが、現地事務所へ働くのとはまた違った、グローバルな視点で仕事ができることを楽しんでます。両方の視点を学んで、遠くない将来、またフィールド(できたら暖かい国)に戻って、働くことが希望です。

ユニセフ国内委員会はどの国にあるのかな?

現在世界には37カ国(注)にユニセフ国内委員会があります。山口さんがあるヨーロッパ地域事務所は、その国内委員会の窓口の役割をしています。ユニセフ国内委員会はユニセフと協力協定を結んだ民間の団体によって運営されており、世界の子どものようすをその国の人びとに伝えたり、募金を集めてユニセフ本部に届けたり、子どもの権利を実現するためにさまざまな活動をしています。(注) 2004年2月現在



Q.ユニセフとその国内委員会の役割の違いは何ですか? (葉 聖一郎 18歳)

日本にあるユニセフ駐日事務所は、ユニセフ本体の東京にある事務所です。そして、日本ユニセフ協会は、日本におけるユニセフ国内委員会です。日本には国連のユニセフのプロジェクトはありませんので、ユニセフ駐日事務所の役割は、主に日本政府との協力関係を強化することなどです。もちろんユニセフのスタッフを本部やフィールドから招いて、シンポジウムなどを開き、政府、メディア、そして国民に、ユニセフの重要課題への取り組みを紹介したりする活動もおこないますが、国内でのアドボカシー(注)活動の中心は日本ユニセフ協会がなっているといえます。

(注) アドボカシー…政策提言。子どもたちの権利が守られるように、国民や政府に働きかけること





山口さんにこんな質問があったよ!!

「ユニセフだけではなく、いろいろな場所で経験をつんできた山口さんに、たくさん質問がありました！」

「将来現地で働くにはどうしたらいいか」「世界の子どもたちのために何が出来るのか」など、ヒントがいっぱいのインタビューでした。



Q 私たち子どもは、同じ世界の子どもの情報を知ることが出来ますか？

(田のぞみ 16歳)

A するとい質問にどきりしました。大切な問題ですね。みなさんへのメッセージの中で、ジュネーブは毎日人道支援の中心地と書きましたが、国連本部では毎日のように、国連専門機関、NGO、政府などが参加して、人道支援や国連のあつかわきささまざまなテーマの会議を開いています。また、国連本部にはつねに約200人のジャーナリストがいて、国連に関するニュースをひびひ、発信しています。私たち広報官だけでなく、こうした会議に出席するスタッフの一人ひとり、子どもたちの代わりとなって、その声を確実に聞いてもらうように、がんばっています。

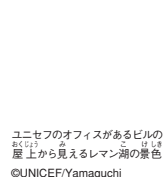
私たちが発信する情報は、主にフィールドのスタッフから来ています。子どもたちの情報はおとなの情報にくらべて手に入りにくかったり、問題が見えにくかったりすることがあります。ユニセフのスタッフのフィールドでの大切な役割の一つは、そうした声をひびひ、まとめて、活動に反映させ、国内外に発信することです。ユニセフがその現場でどれだけよい活動をし、子どもたちに何を持っていかか、ユニセフ全体の情報発信のカギになります。

ですから、その国の中で子どもたちにとって何が肝心かを最初に見きわめるのは、主に現場で活動しているスタッフです。そして、世界各地から送られてくるさまざまな情報の中で、どれを優先するか、また誰に発信すると効果があるかを検討するのが、私たちの仕事です。フィールドから送られてくる情報はどれも大切ですが、すべてを同時に発信できないし、それは効果的ではありません。ユニセフ全体としてのグローバルな視点で、私たちはそのニーズ、緊急性の高さ、ユニセフの取り組みの深さ、インパクトの大きさなどを見きわめて、適切な相手に発信します。

Q 中高生時代はどのように過ごしていたのですか？

(中津川有紀 17歳)

A 私は東京にある私立の中高一貫教育の女子校に通っていたので、高校受験はありませんでしたから、6年間、特に中学一年から高校二年までは、ストレスもなくほんとうによく遊びました！当時の夢は、具体的な職業としては思いついていませんでした。進路について考えていたとき、「人生にとって大切なことは、どんなこと（仕事）をしているか、ではなく、そのことを通じて何をしたいのか、何を伝えたいのか、何をかなえたいのか重要だ」ということを聞き、とても共感し、私は何を伝えたいか、自分の



ユニセフのオフィスがあるビルの近くには見事な山の手な風景が広がります。 ©UNICEF/Yamaguchi

核になる、信念のようなものについて毎日考えているのを感じています。世界を争いのない、よいところにしたいとか、学校や社会をもっと子どもたちが住みやすい場所にしたいとか、自然環境保護にも興味があるし、といろいろなことに興味があったので、何を一番やりたいんだろう、そのためには何が出来るんだろう、と考え、行きづまってしまったのを覚えています。一方で進路は決めなくてはならないし、大学も決めなくてはならないし、現実には社会のしくみの中で決めていかねばならない「選択」に、とてもとまどい、また不満を持っていたのも事実です。私は17歳で、まだ本当の世界も知らないのに、どこで大学でなにをしたいか決めらなくては、むちゃな制度だな、と一人と怒っていたりもしました。ですから、〇〇になりたい、という具体的な夢はなかったのですが、自分の信じていることを見つけ、それを信じて貫いていけるおとなになりたい、という想いがありました。それが夢だったのかもかもしれません。

Q ユニセフで働くには、何か特別な資格や経験が必要でしょうか？

(古川彩香 16歳)

A 一般に、どのポストでも大学院の修士課程以上の学歴が求められることが多いのですが、最近働いた経験（職歴）も、とても重視されます。必ずしも国際開発関係の職歴である必要はなく、例えば、教育担当官なら、教師として働いた経験や、教育関係の仕事をした経験なども、その内容によっては評価されてプラスになることがあります。保健担当官はかつてお医者さんだった人ならいいかもしれませんが、そうでない人のほうが多いと思います。ポストによって必要とされる経験や学歴は異なりますが、最近ではNGOの経験、途上国での活動経験も重視されていると思います。

Q 派遣国や仕事内容は、自分で選べるのですか？ それとも本部からの派遣なのですか？

(田のぞみ 16歳)

A 私は現在、日本政府がサポートするジュニアプロフェッショナルプログラムという制度を利用してユニセフで働いていますが、その制度では希望を出すことができます。ただ、必ずしも働く場所や機関を選べるわけではありません。しかし、通常2年の任期が終了した後、引き続きユニセフで働きたい場合、ユニセフで募集されるポスト（役職）に応募することができます。その場合は、自分の希望する職種や派遣国に自由に応募できますが、そのポストに合った経験や経験がない、競争が激しいため、合格するのにはむずかしいです。国連機関全体にいえることですが、近年、財政面でも厳しい状況にあり、従来の日本のような終身雇用制度で働けるポストは非常に数が限られています。ユニセフでも大部分の人が1年から5年ほどの期間つきの契約で働き、またその契約終了時に自分の希望のポストを探すという形をとっています。

Q 今までしてきた活動の中で、一番印象に残っていることは何ですか？

(須藤 沙織 17歳)

A ワンボビアで仕事をしたいと思っきっかけになった、青少年ワークキャンプを引率したときのことです。

印象に残ったことはたくさんありますが、たとえばね。私たちが寝泊まりしていた場所は、水がめがけられた水があるだけで、それを水浴び、そしてお手洗いを流すことに使います。夕方、みんな列になって順番に水を浴びますが、かめに張った水は、どのくらい使ったか一目瞭然。暑いのでどんどんかき落とさないと、あっという間になくなってしまいます。水道の水だと自分がかどのくらい使っているか、見えませんよね。それに、際限なく使えますよね。でもかめの水は、なくなってしまうと、それ以上すぐに汲みに行くことはできないので、あとの人が困ります。水道の水だと自分がかどのくらい使っているか、見えませんが、かめをすく空にしてしまったのですが、だんだん考えて、みんなが使われるように、大事に水を使うようになりました。

それからみんなで小さな村に学校を建てているときのこと。最初のころ、日本の参加者は、カンボジアの参加者が、怠け者だと怒っていました。日本人くらべて、動きもゆっくりだし、すぐ休むし、お昼休みが終わってもなかなか戻ってこないからです。でも、日本で働くのおとなじょうのようなあでで働いていた日本人は、2・3日ですぐにダウンして病気になってしまいました。照りつける強い日差しと40度近い猛暑のおかげで、とても日本と同じじゃあなくて働くことは無理だからです。みんな、暑い国には暑い国ならではのやりかた、ペースがあるんだ、ということをも身をもって知りました。

Q ジュネーブはフランス語圏内ですが、仕事での英語の使用頻度はどのくらいですか？

(奥村 久美子 15歳)

A 国連公用語は全部で6つ、そのうち国連の仕事をする上で最も頻度が高いのは英語だと思っています。ただ、旧フランス植民地国では、オフィスでもフランス語を使っている、という国がほとんどです。もちろん、ほとんどのスタッフが英語を理解できることが基本です。フランス語ができないと、アフリカの国にたどで仕事はむずかしいでしょう。でも、本部など他の事務所とのやりとりがあるので、英語ができることは前提条件です。

(注) 国連公用語・常任理事国や国連に加盟している国々の中で、特に頻度が高いと考へられて選ばれた6カ国語のこと（英語、フランス語、スペイン語、中国語、ロシア語、アラビア語）

Q 私たち子どもができることは何だと思いますか？

(田のぞみ 16歳)

A 自分も始めて、今わたしたちができることは、あきらめないこと、何をしたいか、何が出来るだろうかという気持ちを持ち続けることだと思います。そして、次に、平和は一人では実現できないので、たくさん人と話したり、時には譲ったり、何が出来るか考えたりしてみてください。子どもは子どものことが一番よくわかる素直で鋭い視点を持っていると思います。おとなたちが忘れがちな子どもの目、ニュースや、情報みつめてください。そして、どうしてなんだろう、なんでなんだろう、何が出来るだろう、とたくさん疑問を持ってください。子どもだけが持つ視点、好奇心、そして時間をフルに活用して、そしてその感想や、想いをおとなたちに伝えてください。おとなはそこら学ぶことがたくさんあると思います。

ユニセフでは、フィールドからの情報を重要とし、情報を送るのにも、綿密な計画が立てられていることがわかりました。また現場での経験が豊富な山口さんの言葉を聞き、考えさせられることが多くありました。たとえ小さな力でも、子どもの視点から物事を鋭く見て、今できることをしていくことが大切だと思いました。私たちは、いろいろなものを吸収できる今こそ、さまざまな文化、考えと触れ合うことが大切だと思います。

進路についての話も考えるところが多かったです。日本の教育では特に、早く進路を決め、大学を決め、曲がり道のない直線の人生が求められるように思います。しかし、ゆっくりと自分の興味あることをしていき、その中で自然に道が開けてくるものだと山口さんはおっしゃいました。だから、今あせて、間違いない進路を決めようとするのではなく、積極的に経験し、やりたいことを見つけていこうと思います。大切なのは、世界のために何かしたい、そのために自分に何が出来るかという問いを持ち続けたいことだと思いました。

(田のぞみ 16歳)



家庭と仕事を両立しながら、自分の夢や信念を実現させているバイタリティーのある山口さんはすごいと思いました。ユニセフという、フィールドでの仕事のイメージが強くあります。そのフィールドで得た情報を伝える大切な仕事があることを、初めて知りました。世界じゅうのどこかで今、民族紛争が起っています。苦言があります。貧困と飢え、そして病気で苦しんでいる人が大勢います。誰もが平和を望んでいるのに、時だけが過ぎていき、取り残されてい、逆行しているところもありません。でも、平和を望む人がある限り、不可能ではないと思います。そして、それを手助けしている人がたくさんいることも、忘れてはいけません！

山口さん、ありがとうございました！

(須藤 沙織 17歳)